

学校教育の現状 2006

今年の初任者研修

2004.6.24a-2006.7.8-8.26

仮説実験授業研究会 丸山秀一

【質問】

ボクは、今年度の初任者研修（他校からの視察研修）で「教務」を担当することとなりました。初任者研修を担当するのは、これで三度目です。では、まず初任者研修の際に、ボクが必ず準備するものといったらなんでしょうか。

予想

- ア 資料をたくさん用意する
- イ プレゼントを用意する
- ウ お菓子を用意する
- エ そのほか

■まず準備するもの

それは「お菓子」です。ケーキとコーヒーが定番です。今年の初任者は「コーヒーは飲みません」というので、麦茶にしました。また、その初任者の担当教科についての本（『たのしい授業プラン○○』）と、一般的に役立ちそうな本（『たのしい授業の思想』、『教育評価論』など）もプレゼントします。しかし、初任者がたくさんいるときは、本のプレゼントは、ちょっとお金がかかりすぎなので紹介だけにします。

【問題】

学校ではよく「研修」という言葉が使われます。でも、「研究」という言葉もよく使われます。「研修」と「研究」の違いはなんだと思いますか。

予想

- ア 精神的な面が強調されているのが「研修」
- イ 成果をあげなければならないのが「研究」
- ウ ほとんど同じ意味
- エ そのほかの考え

■研究と研修

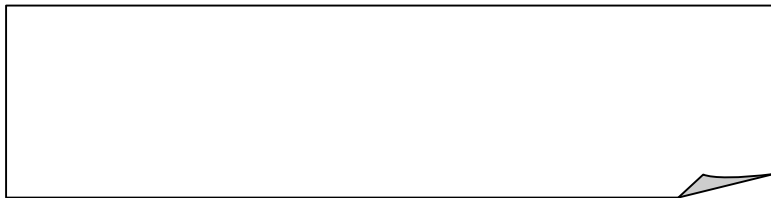
板倉聖宣先生は、明確な定義をしています。「みんなの財産を増やすのが〈研究〉」「すでにある財産を受け継ぐのが〈研修〉」、つまり、「すでに真理が明確であるかどうか」が違いなのです。「たのしい授業をしよう」といっても、その具体的方法がないのであれば、研究するしか有りませんが、すでに具体的方法が確立されているのであれば、それを研修すればよいのです。

初任者でない方にとっては、「そんな言葉の定義など、どうでもいいではないか」と思われるかも知れません。現実の教育の世界では、現実とはかけ離れた「きれいごと=美辞麗句」だけが氾濫していて、そこに長くいる人は「理想と現実は違う」と割り切ってしまうからです。そして「理想への努力」を諦めてしまった結果、「きれいな言葉」と「悲惨な現実」が乖離して、せっかくの言葉（理想）が死んでしまっているのです。それが「教育」だとしたら、なんと寂しいことでしょう。

では、言葉にこだわってみましょう。

【質問】

「教務」という校務分掌がありますが、「教務」とは略語です。ではどんな言葉を略したものでしょうか。「教務」とは簡単に言うと、どんな仕事なのでしょう。



■教務とは

「教務」とは「教育事務」の略語です。しかし、実際の仕事は「授業事務」です。その内容は、教育課程や授業についての雑用係みたいなものです。だから「生徒のためになっている」という感じはあまりしないのですが、その特権を生かして、柔軟に時間割や教育課程の変更に対応することで、「少しは役に立っているかな」という感じです。

教務主任といえば、「授業時数の確保」とか「授業規律の確立」、「教務内規の厳格な適用」などを主張して、管理職の「出先機関」みたいになっている人が多いようです。しかし、教務のような事務部の仕事は、「縁の下の力持ち」的なもので、組織の目的とはなり得ないものです。事務部が威張る組織は、目的を見失って官僚的、管理的になります。

でも事務部であるから適切に管理すべきこともあります。そのひとつは「教育における言葉を厳密に使う」ということです。学校目標に「自ら考え、自ら行動する子ども」とあれば、それに反した行為を教師や学校が押しつけていないか管理します。よく「それでは社会では通用しないぞ」と生徒を脅迫する教師がいます。教育の世界では、言葉は「きれいごと」としてだけ語られ、その内容は空虚なものになっていますが、それこそ「社会では通用しない」ことです。

【質問】

あなたが感じている教育の世界で使われている「おかしい言葉」を出し合いましょう。

■空虚な言葉

教育の世界だけの「不思議な言葉」はたくさんあります。「修礼」などのような造語や、「生徒をらせん的に理解する」、「生きて働く学力」などの「内容のない修飾語」のほかに、「シラバス」、「インターンシップ」、「学力向上フロンティア」などのカタカナ言葉の氾濫も最近の現象です。こういった言葉の多くは、教育学者が作り出しているようです。新しい概念や発見がないのに、新しい言葉を導入することは、学問に対する冒涇であり、学者の汚職といえるでしょう。また教育現場で、意味不明のこういった言葉を使うことは、教育とはかけ離れていることです。

ノーム・チョムスキーは、「学校が民主的かどうかは、〈言っていることとやっていることが同じかどうか〉を見ればわかる」と言っています。

【質問】

「言葉を厳密に使う」ということは、「所定の欠課時数を超過した者の進級卒業は原則として認めない」などの教務内規の規定を機械的に適用すれば済むだけのことなののでしょうか。「殺人がいけないのは、それを禁止する法律があるからだ」ということではありません。憲法に反する法律が認められないのと同じく、殺人は人が人であるための最高原理に反するので許されないのです。「原理原則には序列がある」のです。

では学校教育における最高原理はなんのでしょうか。あなたはどうか考えますか。

■徹底した子ども中心主義

ある人はそれを「教育目標」や「指導要領」「教育基本法」などに求めるかも知れませんが、またある人は「学校の評判」や「自己満足」などに求めるかも知れません。しかし、それらは最高原理には成り得ません。教育の主役は子どもたちにあるからです。学校教育の最高原理は子どもたちの評価なのです。

では、その「子どもたちの学校に対する評価」の現実を見てみましょう。まずは、現在の学校教育のデータについて知っておきましょう。

【問題】

「少子化」と言われています。しかし、児童、生徒、学生数がここ数年増加傾向にあり、今年度も昨年度よりも増加している学校がふたつあります。それは、なにとなにでしょうか。

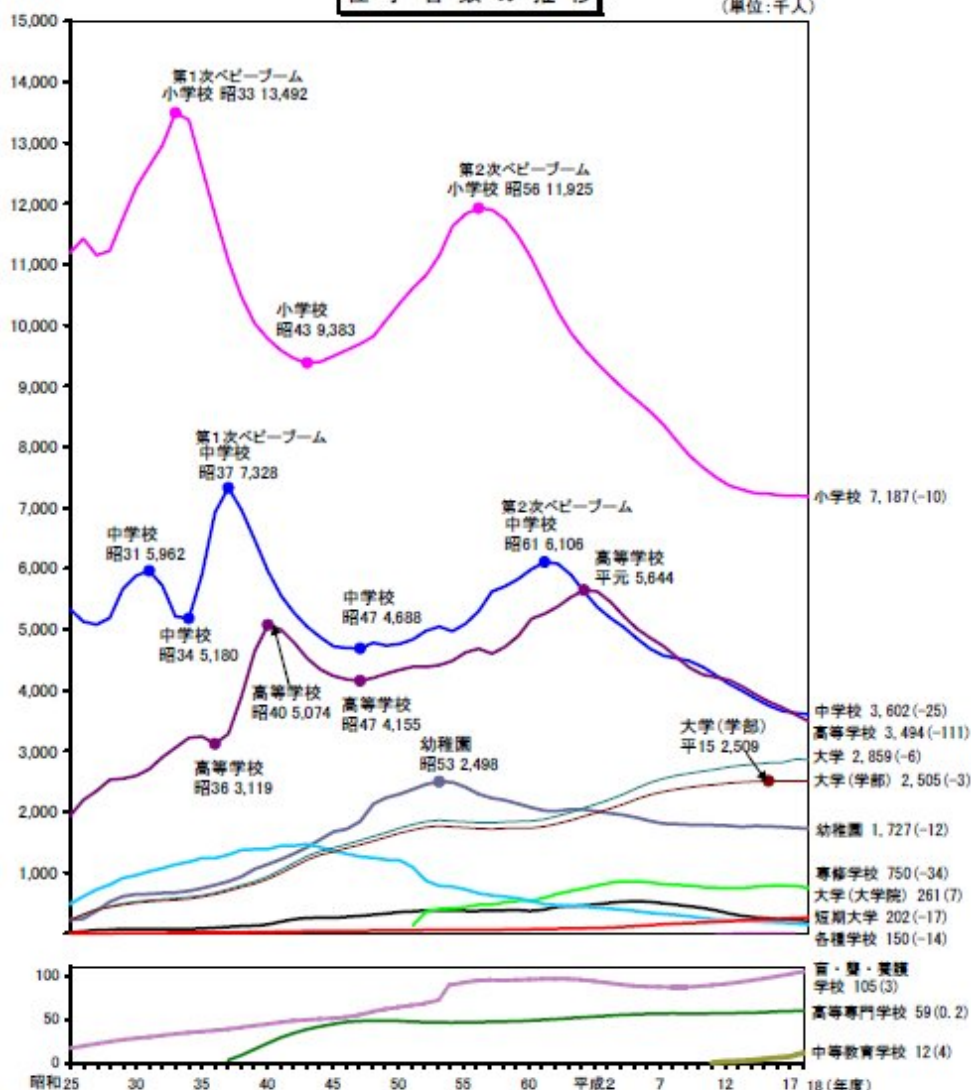
予想

- ☐ 幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 中学校 ☐ 高校
☐ 大学 ☐ 大学院 ☐ 短大 ☐ 養護学校

■児童・生徒・学生数

在学者数の推移

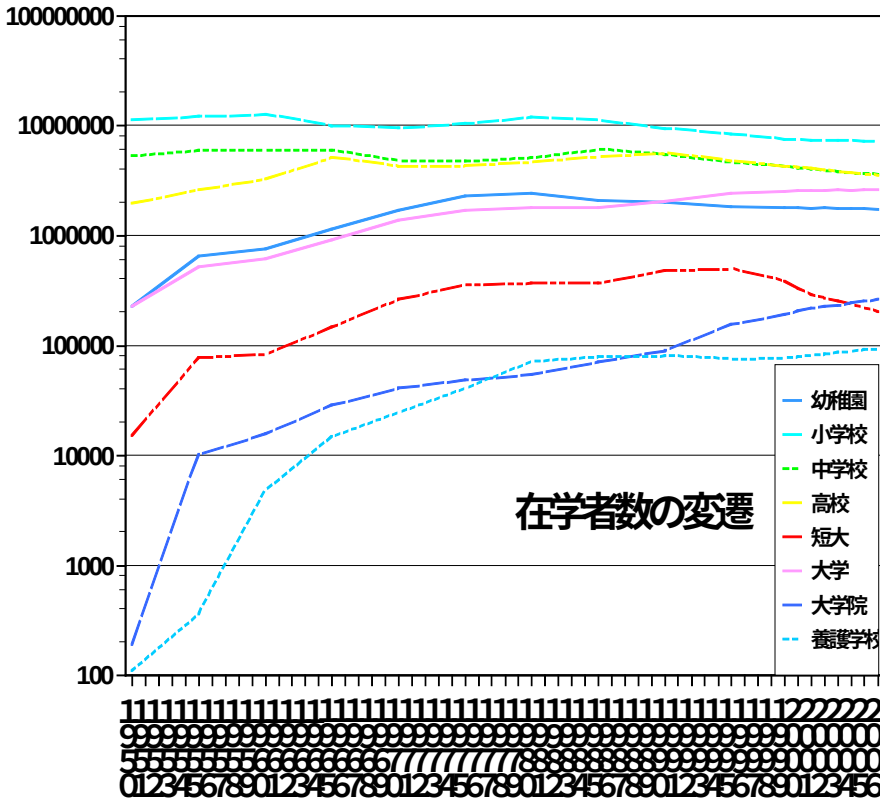
(単位:千人)



(注) () 内の数は、前年度からの増減値(単位:千人)である。

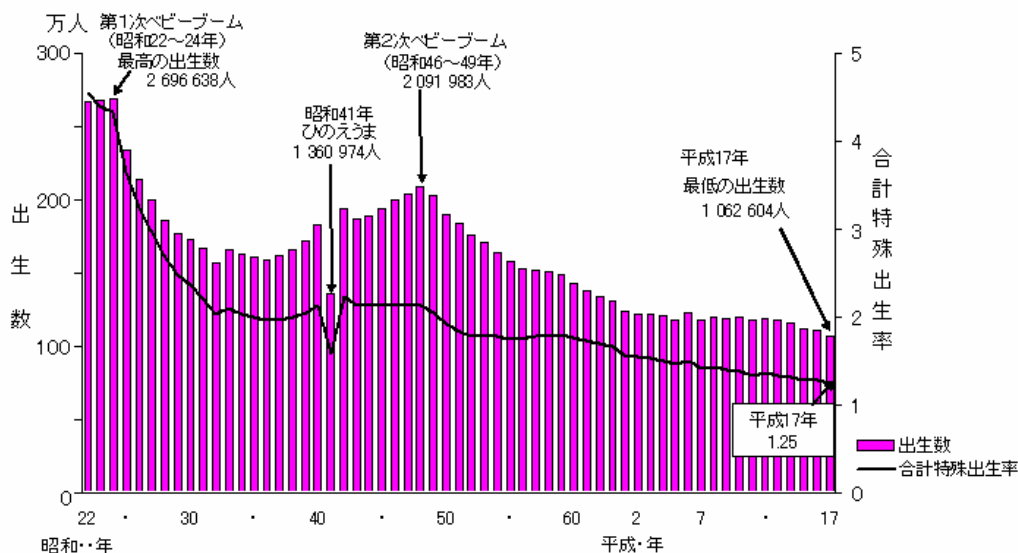
(グラフは文科省サイトより)

増加傾向にあるのは大学院と養護学校です。対数グラフにしてみると、よくわかります。



グラフでは、小学校の児童数の減少が止まったかのように見えますが、出生数のグラフ（厚生労働省）で見ると、この先も減少していくことが分かります。

図1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移



【問題】

少子化の進行により、学校数も減っていったことが予想されます。グラフではっきりと減少がわかる学校が短大の他にふたつありますが、何と何でしょうか。

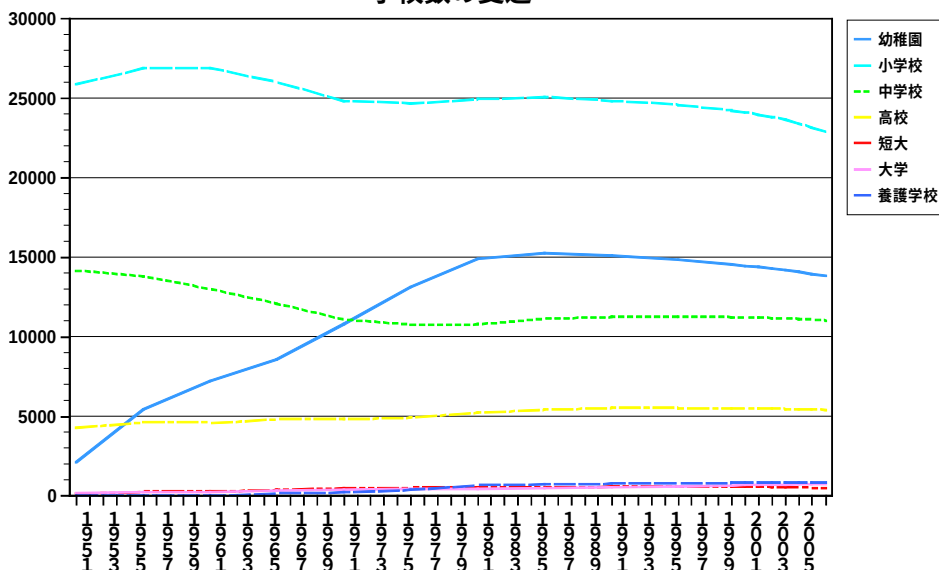
予想

- () 幼稚園 () 小学校 () 中学校 () 高校
() 大学 () 養護学校

■減って行く学校

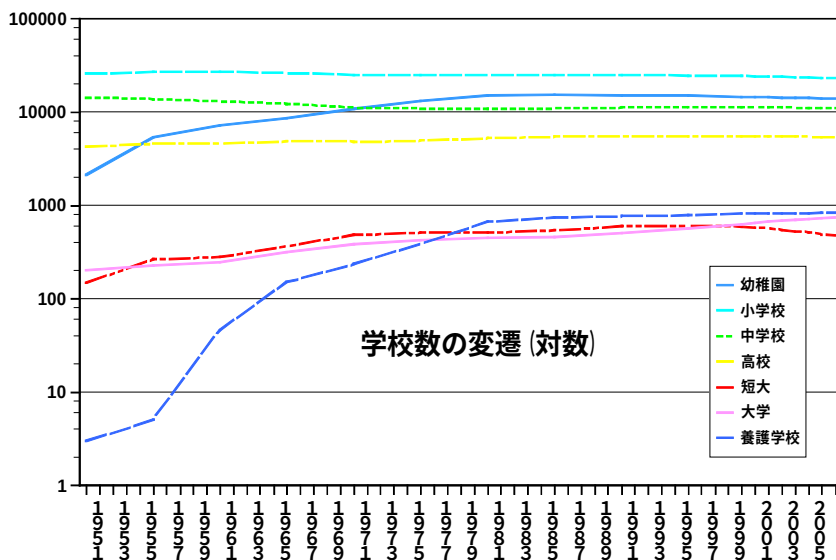
グラフではっきりと減少が分かるのは、短大と小学校と幼稚園です。

学校数の変遷



短大を別にすれば、幼稚園と小学校数の減少は、少子化に基づいたものと言えます。中学校や高校も在学者数は急速に減少しているのですが、学校数の変化には、まだそれが現れていません。つまり、中・高校では学級数やひとクラスの生徒数を減らしながらも学校数を維持しているのです。北海道では、どんどん高校が減っていますが、それは生徒数の減少と言うよりは、財政的理由からなのです。

学校数の変遷を対数グラフで見ると、短大の減少と大学の増加がはっきりと分かります。



【質問】

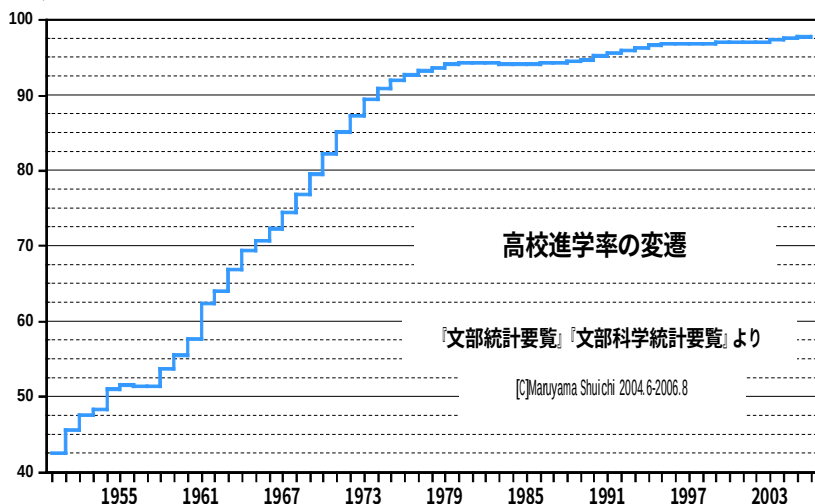
高校への進学率は 1974 年に 90%を越えるまで急激に上昇し、その後も微増を続けていました。では、現在でもその傾向は続いているのでしょうか。

予想

- ア 続いている
- イ 減少傾向になっている
- ウ 横ばいになっている

■ 高校進学率

(単位: %)



敗戦後の教育方針では「高校全入」が掲げられていましたが、それは今でも達成されていません。ただ微増(0.1%)の傾向は続いており、2006年では97.7%となっています。

これを「100%にしよう」という努力は意味のないものです。むしろ「高校へ行かない人が必ずいるのだ」と思っていた方がよいでしょう。

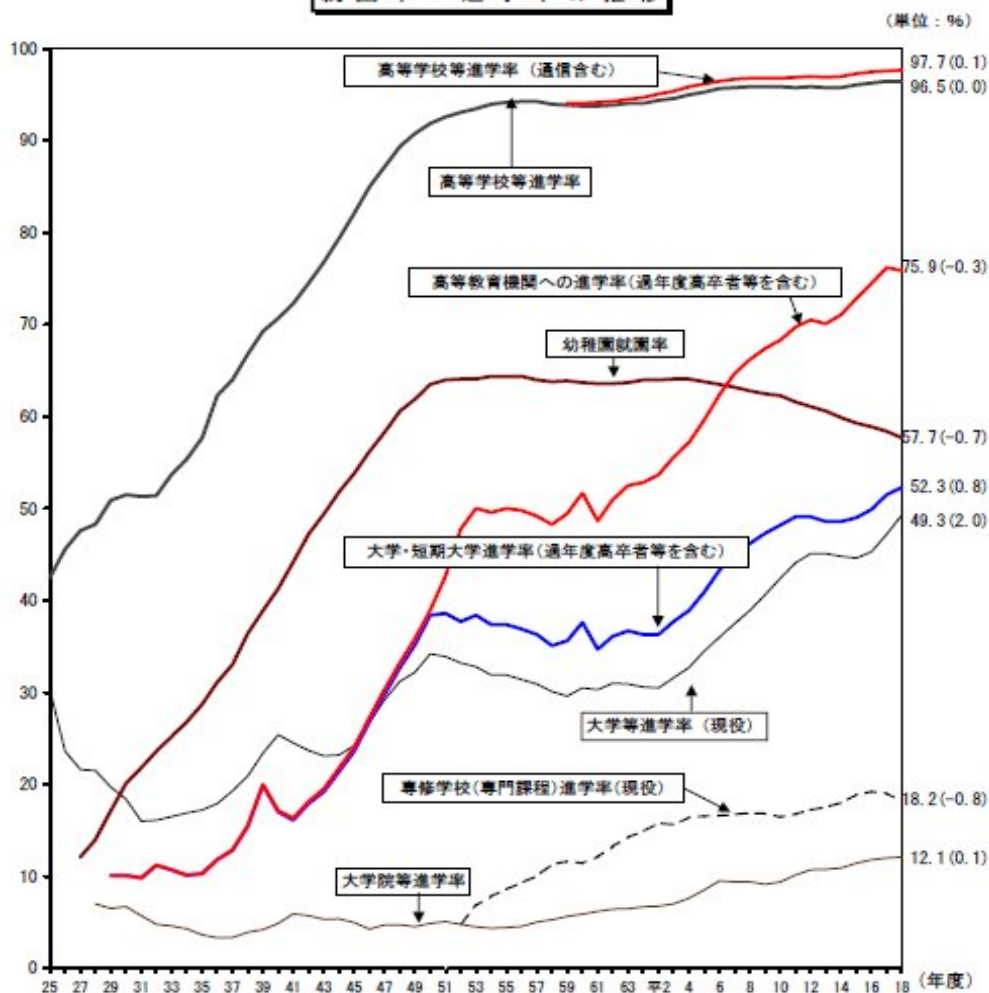
【質問】

「97.7%の進学率」と言っても、途中でやめてしまう生徒が多いのであれば、意味が違ってきます。そこで卒業率を調べてみることにしましょう。高校に入学した生徒が三年後に卒業する率は、どんな傾向にあると思いますか。

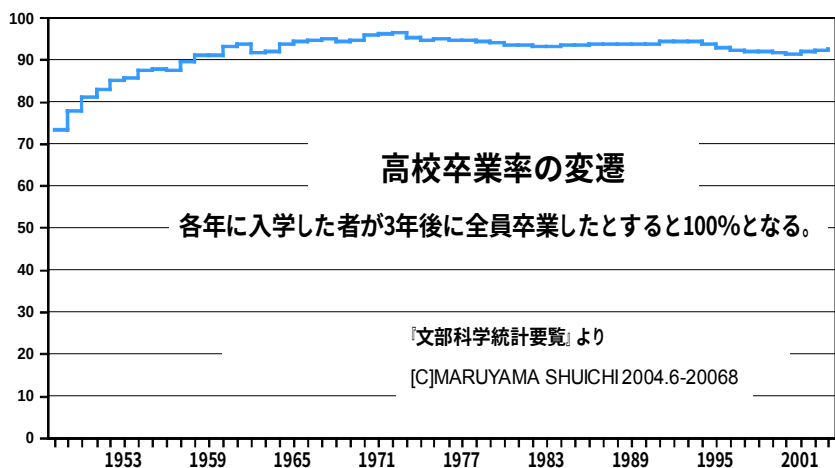
予想

- ア 増加傾向
- イ 減少傾向
- ウ ほぼ横ばい

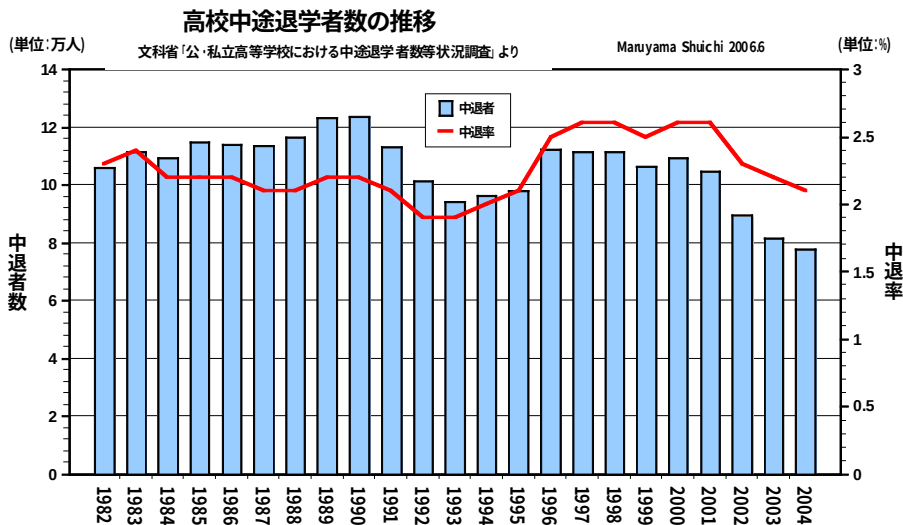
就 園 率 ・ 進 学 率 の 推 移



■ 高校卒業率



高校卒業率は 2001 年度入学生より増加に転じています。それは中退率のグラフでも分かります。



それでも現在の高校教育に魅力を感じないので退学する自主性にあふれた子どもたちが年間ε万人もいるわけです。

【問題】

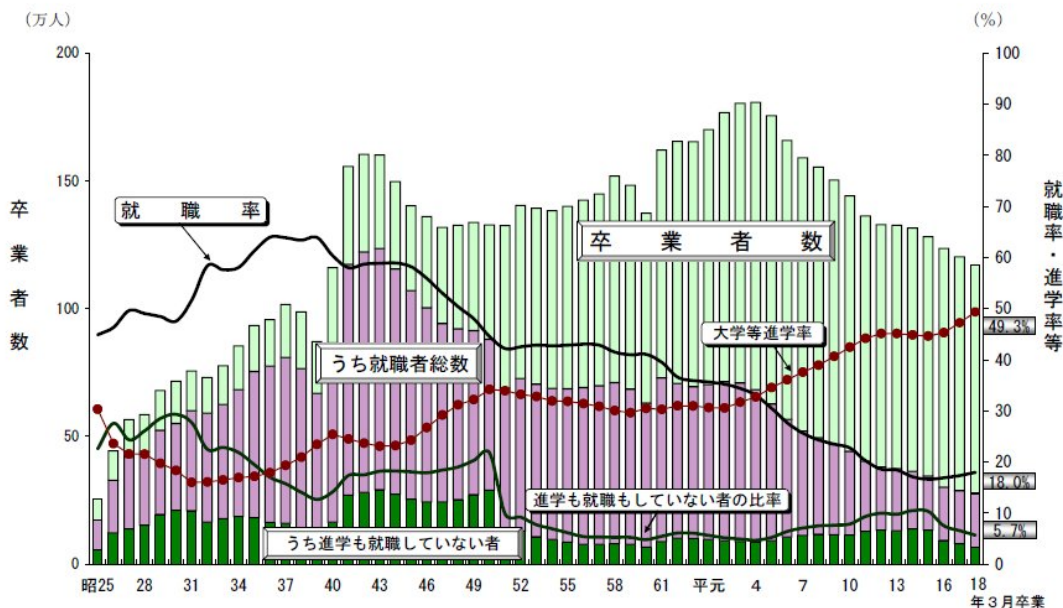
今年3月の高校卒業者の大学等への進学率は49.3%と過去最高でした。では、いわゆる「ニート」、つまり「進学も就職もしていない者=明らかに進路が未定である者」の割合は、ここ数年どうなっていると思いますか。

予想

- ア 増加傾向
- イ 減少傾向
- ウ 横ばい

■ニートの割合

卒業生数、就職者数及び就職率等の推移〔高等学校〕



それまで停滞していた大学等進学率は 2003（平成 15）年度より上昇しています。それと一緒に、就職率も上昇に転じ、「ニート」の割合も減少に転じているのです。

【問題】

2003 年度からのこの変化は何が原因なのでしょう。そのひとつの理由として、景気が考えられます。では、2003 年あたりから実際に、失業率の低下，求人倍率の上昇，フリーターの減少などが起こっているのでしょうか。

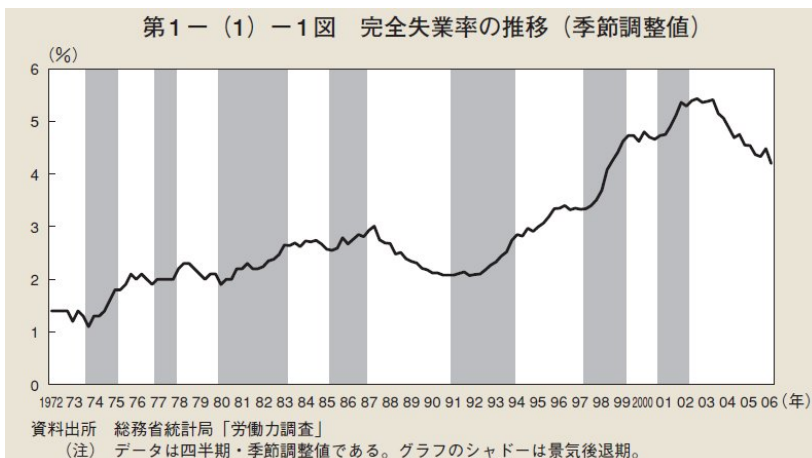
予想 ア そうなっている イ そうはなっていない

（ ） 失業率の低下

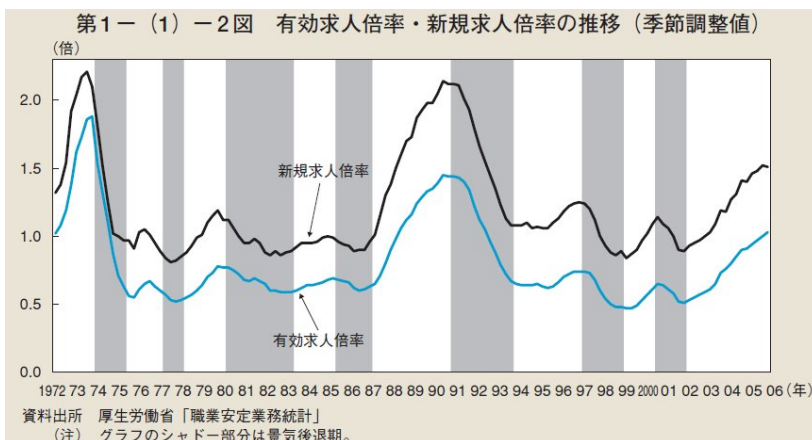
（ ） 求人倍率の上昇

（ ） フリーターの減少

■景気回復

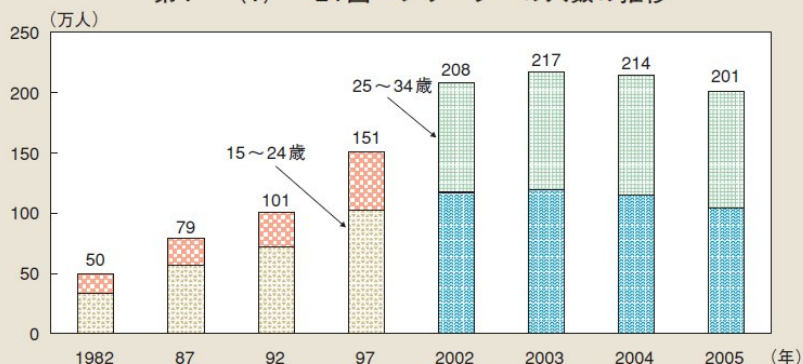


2003年あたりから、失業率は低下し、求人倍率も上昇を続けています。さらにフリーターも減少に転じています。進学や就職、ニートといったことは、景気の回復と連動していることは確かです。



資料は『平成18年版 労働経済の分析』より

第1－(1)－24図 フリーターの人数の推移



資料出所 1982年、87年、92年、97年については「平成17年版 労働経済の分析」より転記。

2002年以降については、総務省統計局「労働力調査（詳細結果）」。

- (注) 1) 1982年、87年、92年、97年については、フリーターを、年齢は15～34歳と限定し、
 ①現在就業している者については勤め先における呼称が「パート」又は「アルバイト」である雇用者で、男性については継続就業年数が1～5年未満の者、女性については未婚で仕事を主にしている者とし、②現在無業の者については家事も通学もしておらず「パート・アルバイト」の仕事を希望する者と定義し、集計している。
- 2) 2002年から2005年については、フリーターを15～34歳で、男性は卒業生、女性は卒業生で未婚の者とし、①雇用者のうち勤め先における呼称が「パート」又は「アルバイト」である者、②完全失業者のうち探している仕事の形態が「パート・アルバイト」の者、③非労働力人口のうち希望する仕事の形態が「パート・アルバイト」で、家事も通学も就業内定もしていない「その他」の者としている。
- 3) 1982年から97年までの数値と2002年から2005年までの数値とでは、フリーターの定義等が異なることから接続しない点に留意する必要がある。

フリーターは割合においても低下しており、高校卒業生では0.3%低下の1.6%、大学卒業生では0.5%低下の3.0%となっています。

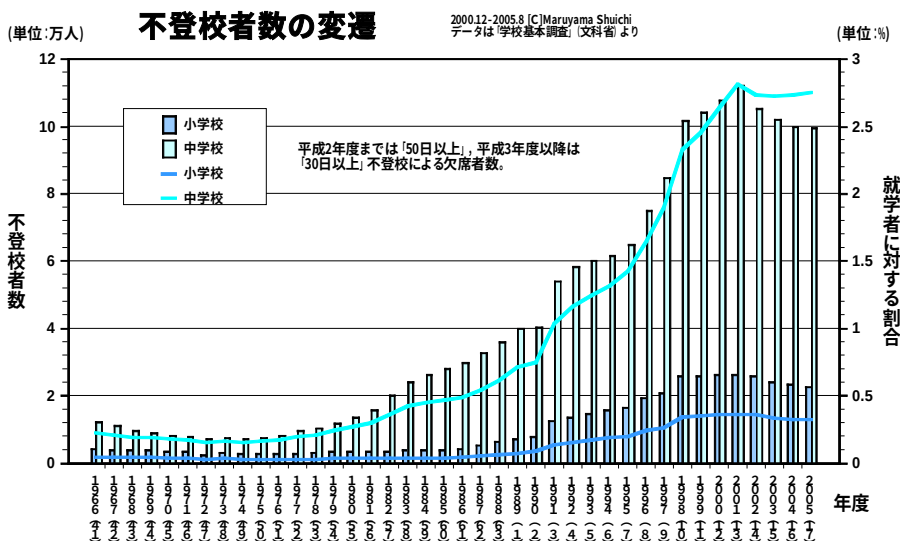
【質問】

では、学校に来ている子どもたちは、日々をたのしんでいるのでしょうか。不登校はまさに学校教育に対する子どもたちの評価です。では、不登校者の割合は、現在どんな傾向だと思いますか。

予想

- ア 増加傾向
- イ 減少傾向
- ウ ほぼ横ばい

■不登校



1975 年以來ずっと増加傾向を示してきた不登校者の割合は、2002 年度初めて減少に転じました。しかし、2005 年度再び上昇したのです。グラフを見ると、不登校がニートやフリーターとは関連していないことが分かります。

今後、不登校はさらに増えて行くのでしょうか。校内暴力やいじめも子どもたちの学校に対する「評価」のひとつです。その現状を見ながら考えてみましょう。

【質問】

校内暴力の現状はどういう状況だと思いますか。小・中・高、すべて同じような状態となっています。

予想

ア 増加傾向

イ 減少傾向

ウ 横ばい

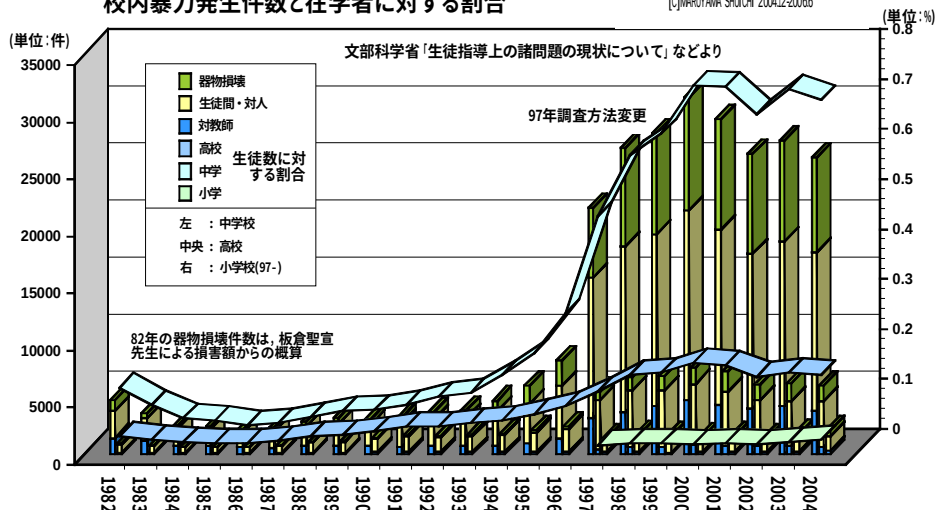
文部科学省の統計では「学校における暴力行為」を発生場所によって「校内」と「校外」に分けていますが、このレポートでは、発生場所にかかわらずすべてを「校内暴力」として表現しています。

残念ながら、いじめ、校内暴力などに関する 2005 年度のデータはまだ発表されていません（9 月頃）ので、2004 年度までのデータです。

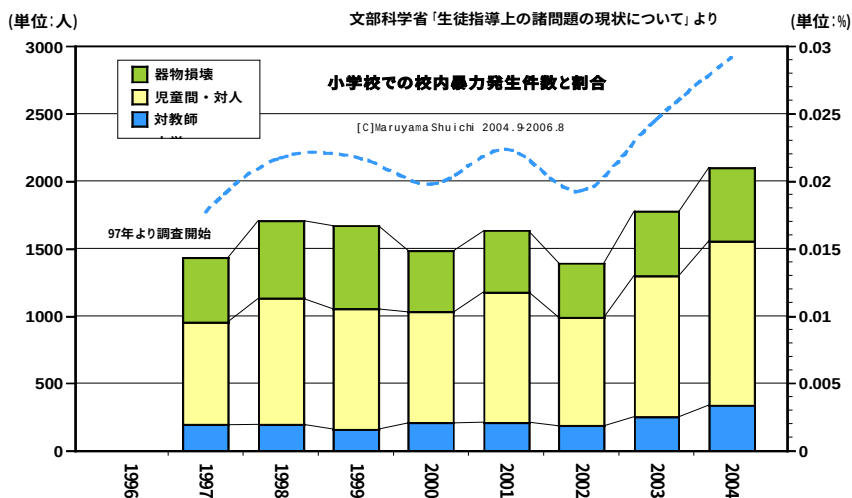
■校内暴力

校内暴力発生件数と在学者に対する割合

[C]MARUYAMA SHUICHI 2004.12-2006.6



2002 年度にいったんは減少するかに見えた校内暴力も、2003 年度には再び増加し、その後、横ばい傾向となっています。ただ



小学校においては、件数・割合の両方で微増を続けています。そしてその内容では、「対児童・対教師暴力」が増えています。

【問題】

このように校内暴力は件数・割合とも「高値安定」傾向にあります。では「いじめ」ではどうでしょうか。いじめも「高値安定」傾向にあると思いますか。

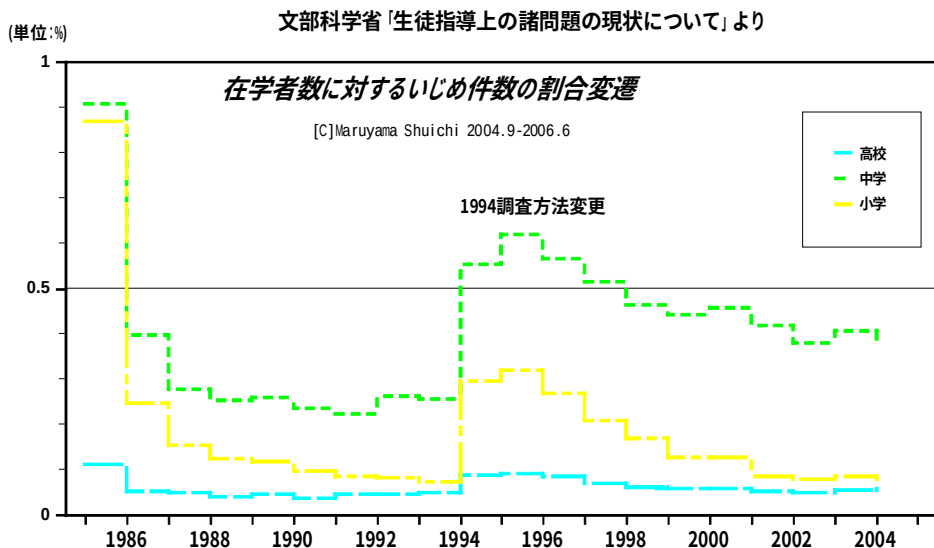
予想

ア 「高値安定」傾向

イ 減少傾向

ウ 増加傾向

■ いじめ



「いじめ」はこの10年間で、ほぼ一貫して減少傾向を示していましたが、最近では、減少傾向から横ばいになってきています。

【質問】

10年前より「いじめ」が少なくなり、4年前には「不登校」と「校内暴力」も一時減少しました。そして、最近では、そのどれもが減少傾向を止めたみたいなのです。

では、この変化の原因はなんなのでしょうか。あなたはどのように思いますか。思いつくまま出し合いましょう。

■教育方針の変化

中一夫さんのレポート（「〈ゆとり〉か〈学力〉か ゆれる学習指導要領」『たのしい授業』2003.11, 次項の図も）にもあるように、文部（科学）省は、増加する一方の「不登校」や「校内暴力」に対して、「興味関心重視」の方針をとってきました。「たのしい学校、たのしい授業が解決方法である」と気がついていたのです。もしかしたら、それがある程度の成功を取めて、「いじめ」が減少を始め、「不登校」と「校内暴力」も減少となったのかも知れません。

しかし、2003年にはその方針を「学力重視」へと転換させました。そして、ちょうどその頃、「いじめ」「不登校」「校内暴力」の減少傾向が止まったのです。

文科省は、「いじめ」や「不登校」などの問題は、「社会全体の問題」としています。教育方針の変化が社会の変化を表しているのならば、子どもたちはそれを敏感に感じ取って、反発しているのかも知れません。それが「評価」なのです。

【問題】

こんどは教育の現状に対する「教師の評価」を見ていきましょう。教員の不登校である休職者の割合は、現在どんな傾向にあると思いますか。

予想

- ア 増加傾向
- イ 横ばい
- ウ 減少傾向

学習指導要領の変遷

経験・興味重視 ←

→ 学力重視

1947 昭22
48
1949
50
51 昭26
52
53
54
55
56
57
58 昭33
1959
60
61
62
63
64
65
66
1967
68 昭43
1969
70
71
72
73
74
75
76
77 昭52
78
1979
80
81
82
83
84
85
86
87
88
1989 平成
90
91
92
93
94
95
96
97
98 平10
1999
2000
01
02
03 平15

●1947(昭22) 試案
国家主義教育から民主主義へ・児童中心主義
生活単元学習/社会科の新設

批判の声
基礎学力不足
経験主義批判

●1951(昭26) 試案
教科を4つの経験領域に分け、
教科間の関連をはかる
「問題解決学習」/自由研究が発展的に解消

基礎学力不足
経験主義批判
教科の系統性の重視

学習指導要領が答申され
た年を基準にしています。
完全実施は数年後になるの
が普通です。

図中の曲線、左右の分散
は、厳密なものではありません。
「およその傾向」と
お考えください。

●1958(昭33)
経験主義を是正し、基礎学力の育成
系統学習/道徳教育/科学技術教育
指導要領が法的拘束力

●1968(昭43)
教育内容の一層の充実・現代化
時代の進展に対応した教育内容の導入
学習の系統性を重視/学習内容のレベ
ルアップ/教育課程の各教科、道徳、
特別活動の3領域に

落ちこぼれ問題
詰め込み教育批判

●1977(昭52)
ゆとりある充実した学校生活の実現
=学習負担の適正化
教育内容の精選/授業内容の削減
ゆとりの時間の導入

不登校
校内暴力

二階堂泰全講演記録
「社会の変化と楽しい
授業」『社会の変化と
仮説実験授業』(火の
国仮説の会、2000)
の表をもとに、文部
科学省のホームペー
ジも参考にしました。

●1989(平成元)
新しい学力観、社会の変化に自ら対応
できる心豊かな人間の育成
生活科の新設/教育内容の削減/
選択教科の拡大/教育の個性化と多様化

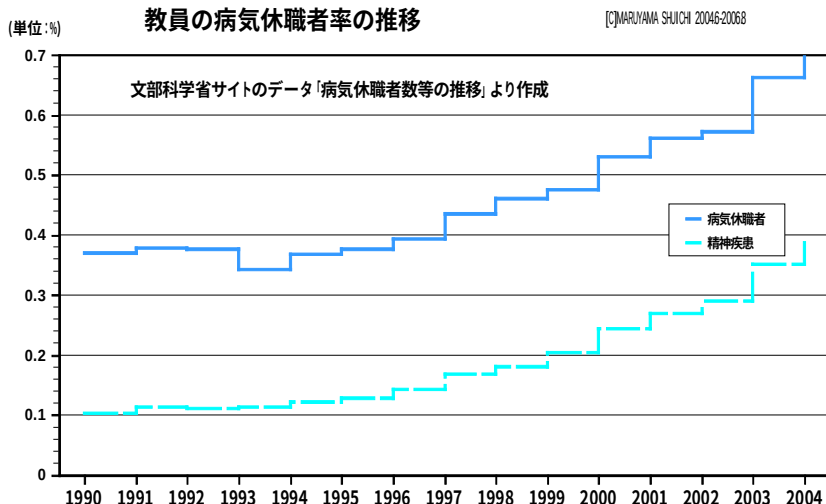
理科ばなれ
勉強ばなれ

●1998(平成10)
自ら学び考える力などの「生きる力」の育成
総合学習の導入/教育内容の厳選・削減

学力低下問題

●2003(平成15)
指導要領改訂、学力重視へ/総合学習の充実/
指導要領の基準性強調

■教員の不登校



教員総数が減っているというのに、病気休職者は増加する一方で、その率も、精神疾患による休職では一貫して増加を続けています。学校が教師にとっても辛いものになっているのです。

グラフから 2003 年度に大きな伸びがあったのが分かりますが、2003 年度といえば、その前年度に初めて減少した不登校と校内暴力が再び増加に転じた年です。

いじめや不登校、校内暴力などは「子どもの学校不適応」と言われます。しかし、このように「教員の学校不適応」も増大しているのです。教育の主役が誰かを考えれば、「学校が子ども（教員）不適応を起こしている」と考えた方がよいでしょう。

いじめや不登校、校内暴力とは違って、全く減少することのないこの「教員の不登校」の増加は、将来も続いてゆくのでしょうか。

【問題】

教師が漏らす愚痴の一番が「最近の子どもはダメになった」というものです。「最近の子どもは殺人事件まで犯す。こんなこと昔はなかった」ともいうのですが、それは本当でしょうか。

校内暴力が沈静化していた 20 年ほど前と比較して、現在子どもによる殺人事件数は増加していると思いますか。

予想

ア 増加傾向

イ 横ばい

ウ 減少傾向

仮説社

〒163-0075 東京都文京区

03-3204-1779

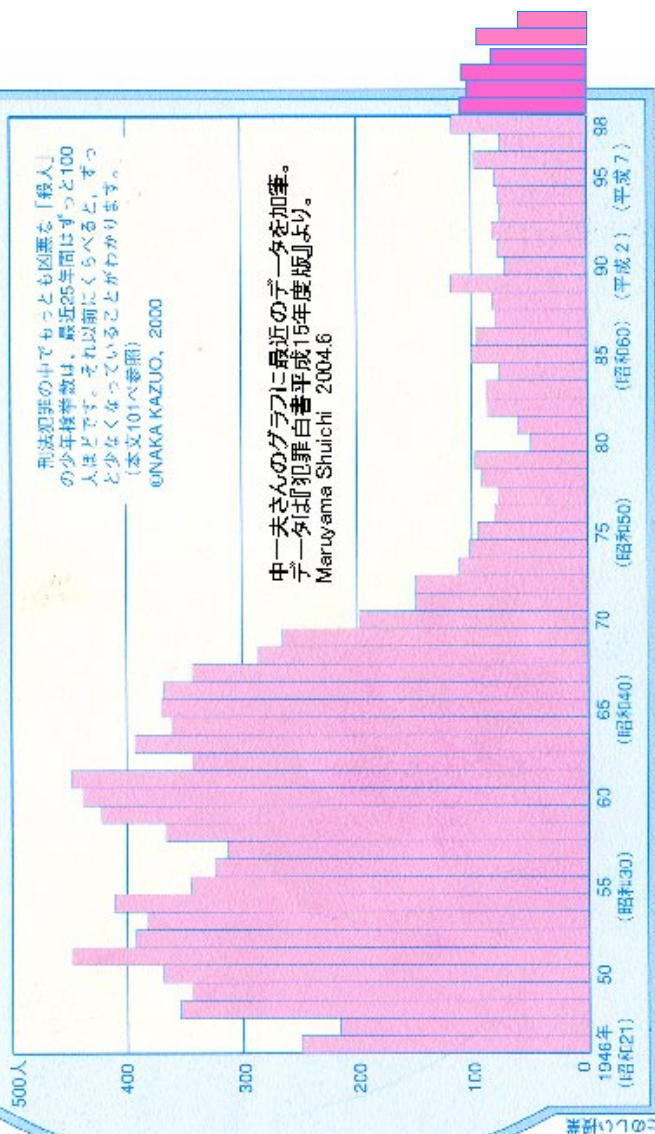
03-3204-1779

グラフで見る世界—148

「殺人」の少年検挙数の推移

『たのしい授業』2000.10

仮説社



■プロパガンダ

子どもによる殺人事件はここ 30 年以上にわたって 100 人前後の横ばい状態で、過去の多かった時期と比べるとの 4 分の 1 以下なのです。ですから校内暴力などは「子どもが悪くなった」のではなく、「学校が悪くなった」というしかないものです。

しかし、テレビや週刊誌などが、子どもによる殺人事件を大々的に取り上げ、「識者」と言われる人たちが「道德教育をしないからこんなに増えたのだ」とコメントすることにより、多くの日本人が「子どもは悪くなっている。なんとかしなければ」と思いこまされています。

敗戦直後の文部省は『新教育方針』として「だまされないための教育」を訴えました。

われわれは、さきに日本国民の弱点として、合理的精神に乏しく科学的水準が低いことを述べた。そして軍国主義者及び極端な国家主義者が、こうした弱点を利用しやすいことを説いた。このことをいいかえれば、真実を愛する心、すなわち真実を求め真実を行う態度が、指導者に誤り導かれぬために必要であることを意味する。日本国民にこの態度があったならば、〈神かがり〉や〈ひとりよがり〉におちいることなく、世界の大勢にも通じ、外国や自国の実力をも知り、戦局の真相をも問いただすことができたであろう。そしてあのような向こうみずの戦争にかりたてられたり、降伏の直前までだまされ通したりすることはなかったにちがいない。

文部省『新教育方針』（1946）、板倉聖宣『科学的とはどういうことか』仮説社（1977）より引用

民主主義の社会では、国民をだますのは難しくなっています。しかし、方法がないわけではありません。それは「恐怖感を与えることで、大切なことから目を背けさせる」という方法です。

ナチス指導者を裁いたニュルンベルク裁判で絞首刑を宣告されたヘルマン・ゲーリング（ナチス・ドイツ国家元帥）は次のように述べています。

「民衆は常に指導者の命令に従わせることが可能だ。それは簡単なことだ。やるべき事はただひとつだ。民衆に対して、〈おまえ達は攻撃されるぞ〉と告げることだ。そして平和主義者には、〈愛国心に欠け、国を危険にさらす〉と非難するだけでよいのだ。どの国でも全く同じだ」

あなたはどんな教師になりたいと考えていますか。

【研究問題】

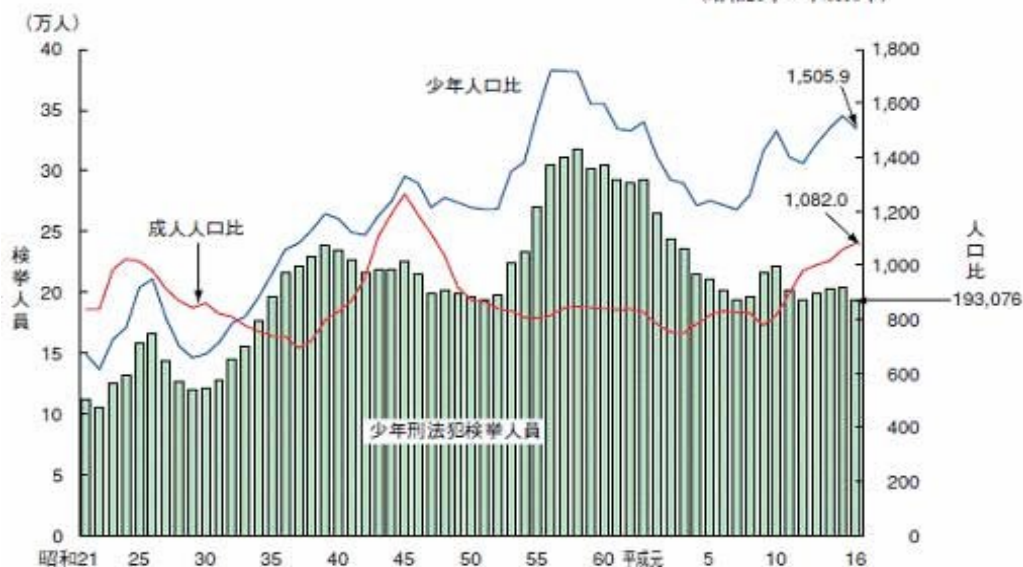
「少年犯罪の検挙率」は、ここ数年は高い水準にあり、「少年犯罪が多い」といえないことはありません。最近の少年犯罪で最も多い罪名は「窃盗罪」と「横領罪」です。このふたつで少年犯罪全体のどのぐらいの割合を占めていると思いますか。

予想

- ア 8割以上
- イ 6割ぐらい
- ウ 4割ぐらい
- エ 2割以下

第4図 少年刑法犯検挙人員・人口比の推移

(昭和21年～平成16年)



- 注 1 警察庁の統計及び総務省統計局の人口資料による。
 2 触法少年の補導人員を含む。
 3 昭和45年以降は、触法少年の交通関係棄過を除く。
 4 「少年人口比」は、10歳以上20歳未満の少年人口10万人当たりの少年刑法犯検挙人員の比率であり、「成人人口比」は、20歳以上の成人人口10万人当たりの成人刑法犯検挙人員の比率である。

『犯罪白書』より

■凶悪化?

万引きは窃盗罪ですし、アルバイト先で自分が扱っているものやお金を自分のものにしたり、放置自転車を自分のために使ったりすることは横領罪です。そして、少年犯罪の 85%（2004 年度）は、この窃盗罪と横領罪なのです。

このあたりこともだまされやすいことなので、調べてみたくなりますね。

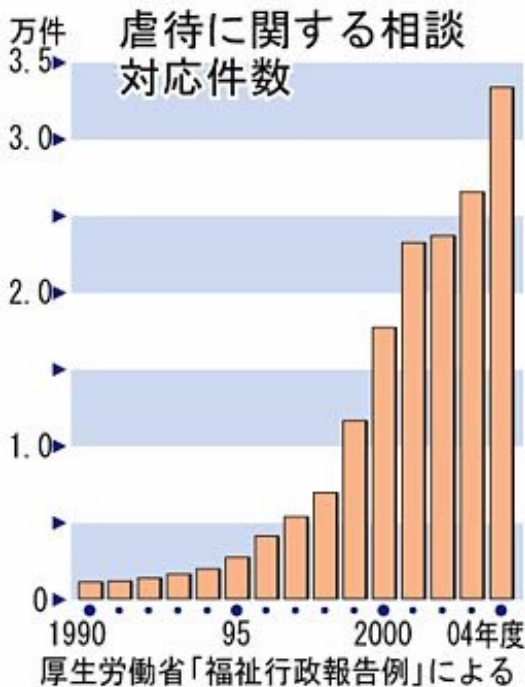
【研究問題】

子どもの暴力や犯罪を見てきたので、今度は「子どもに対する大人の暴力」を見てみましょう。

「子どもの虐待」の件数は、どのような傾向になっているのでしょうか。

予想

- ア 増加傾向
- イ 横ばい
- ウ 減少傾向



■虐待件数

虐待の件数は統計を取り始めた 1990 年度より一貫して上昇、それも急上昇を続けています。

「青少年白書」では、この増加に対して「社会全体で早急に解決すべき問題」と指摘しています。

【研究問題】

では、教員による体罰やわいせつ行為はどうでしょうか。どんな傾向にあるのでしょうか。

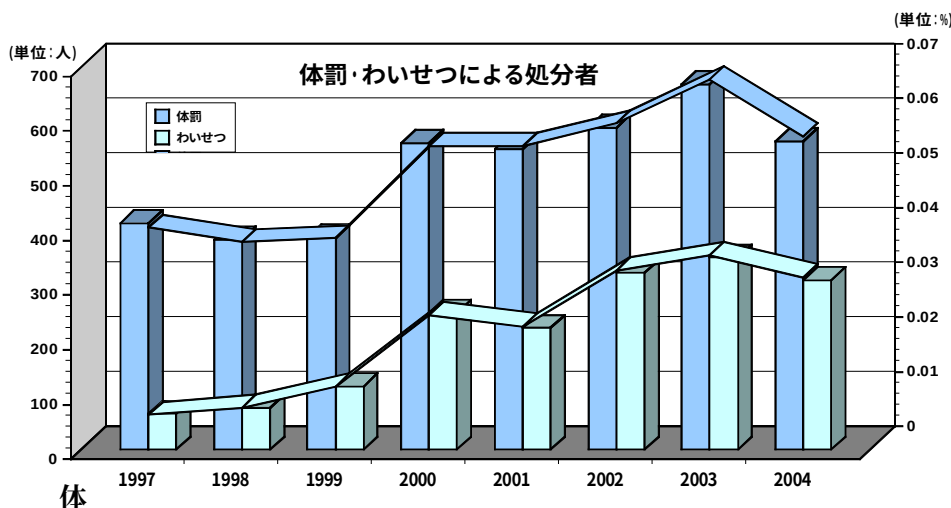
予想 体罰 () わいせつ行為 ()

ア 増加傾向

イ 横ばい

ウ 減少傾向

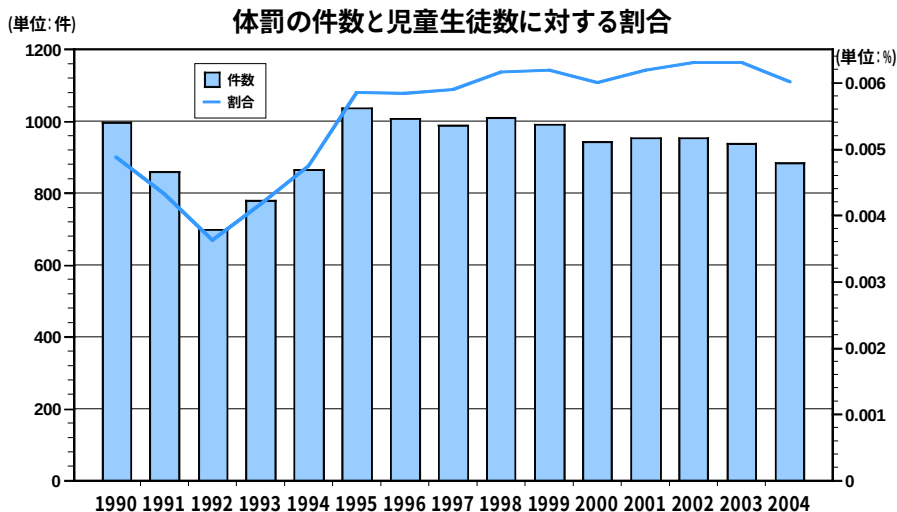
■体罰とわいせつ行為



罰、わいせつ行為で処分された教員数は、増加傾向にありましたが、2004年度には減少しています。割合も全く同じ傾向を示すのは、教員の数あまり変わっていないことを示しています。

ここでの「教員」とは「公立学校（小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、盲学校、聾学校及び養護学校）の教育職員（校長、教頭、教諭、助教諭、養護教諭、養護助教諭、講師、実習助手及び寮母）に係る者」のこと。

体罰の件数で見ると、1995年度（平成7）をピークにゆるやかな減少傾向にありますが、児童生徒数での割合で見ると、なんともいえません。



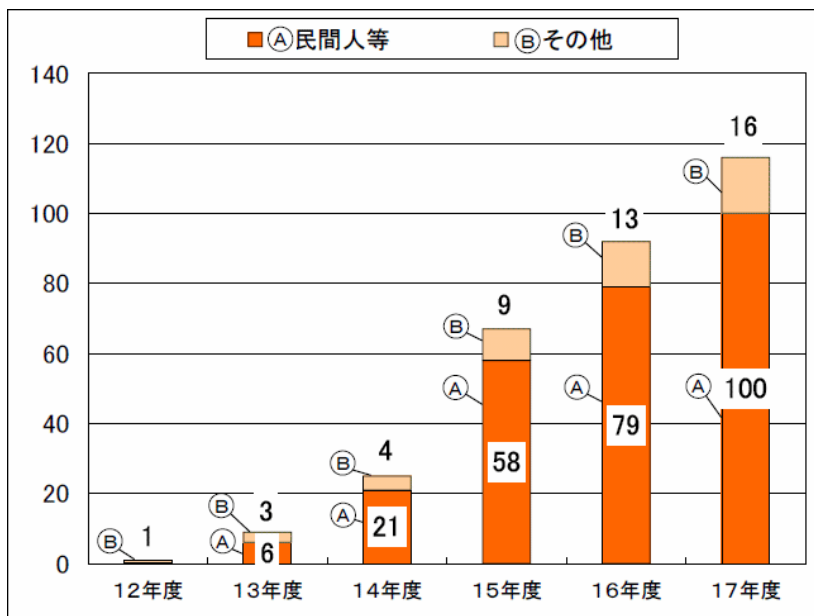
【研究問題】

2000 年度より、教員出身でない者が校長になれるようになりました。では、現在、そういった「民間人校長」は、増加傾向にあるのでしょうか。

予想

- ア 増加傾向
- イ 横ばい
- ウ 減少傾向

■「民間人校長」



(注) 1. 数字は各年度の4月1日時点までにおける校長への任用実績の総数であり、人事異動等により既に校長職にない者の数も含んでいる。

2. 「民間人等」とは、原則として、教員免許状を持たず、「教育に関する職」に就いた経験がない者をいう。

3. 「その他」とは、教員免許状を持たないが、「教育に関する職」に10年以上就いた経験がある者をいう。

グラフで見るように、「民間人校長」は増加傾向にあります。東京都の中村教育長は「民間人校長」について都議会で次のような評価をしています。「都教育委員会は、これまで四名の民間人を都立高校の校長に登用したところでございます。その成果でございますが、学校の現状をきめ細かく分析し、明確な数値目標を掲げ

た学校経営の確立、企業人として培った幅広い人脈を活用したキャリア教育の推進、新たなビジネス教育への生徒、保護者等のニーズにこたえるための教育活動の展開など、民間で培った経営手腕と従来にない発想によりまして学校経営を推進してきております。これらの成果につきましては、他の都立学校にも大きな影響を与えておりまして、都立学校全体の活性化に寄与したと考えております」

それにしても、教育の仕事とは、全く経験のない人でもトップに立つことができるような、専門性のないもののようです。「プロ教師」として専門性を主張する人たちも、「民間人校長」には抗議していないようです。

【研究問題】

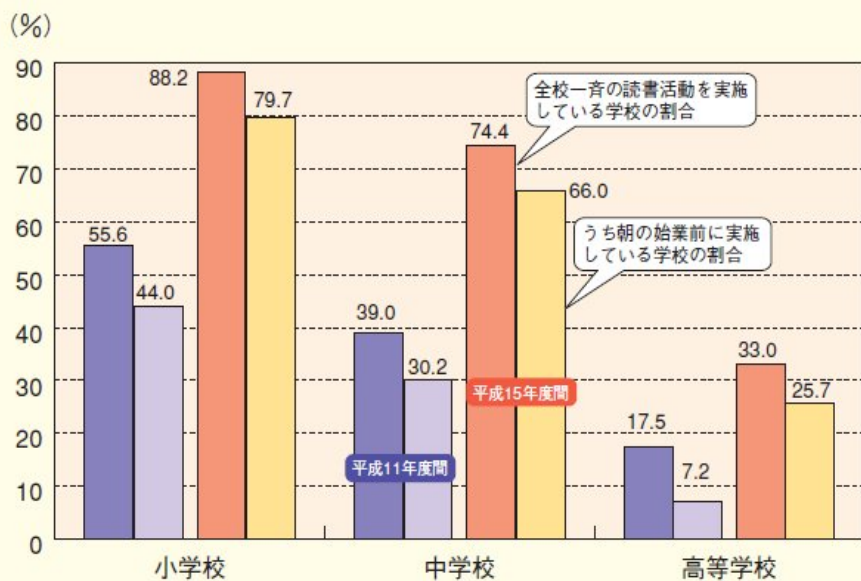
近隣の高校では「朝読書」が流行していますが、それは全国的な傾向です。グラフのように、ほとんどの小学校、多くの中学校、そして、4分の1の高校で朝読書が行われています。

では、こうした教育活動の結果、一時期言われていた「子どもの読書離れ」は、最近なくなっているのでしょうか。

「一ヵ月に一冊も本を読まなかった子どもの割合」のグラフで見ましょう。

予想

- ア 減少している
- イ 変化はない
- ウ 増加している



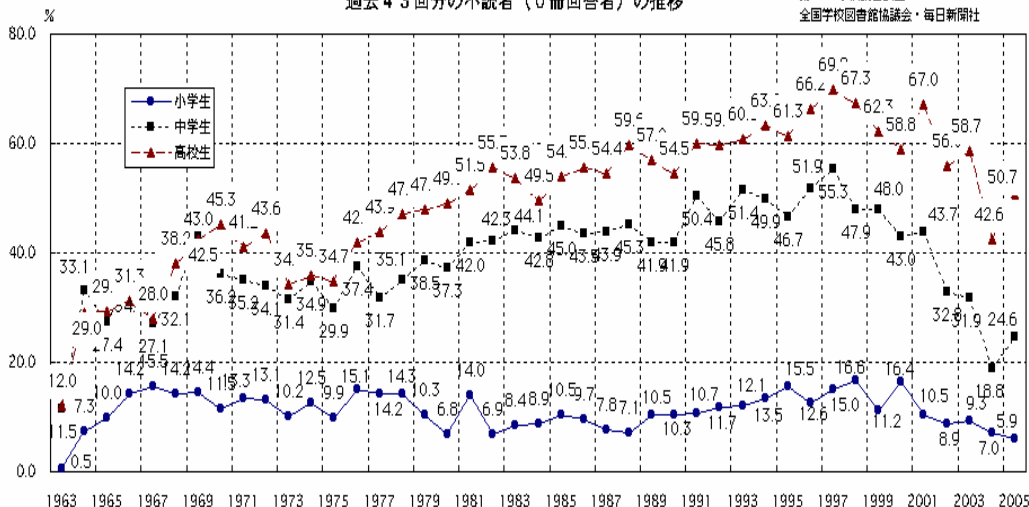
(注) 数値は公立学校のみ。
 (資料) 「学校図書館の現状に関する調査」

■「読書離れ」

「一ヵ月に一冊も本を読まなかった子どもの割合」のグラフで見ると、1998 年ぐらいから、その割合は減少しているようです。しかし、昨年の調査では、中学校と高校で割合が上昇しています。

過去 43 回分の不読者（0 冊回答者）の推移

第51回学校読書調査
全国学校図書館協議会・毎日新聞社



実際に、管内の高校でも、「朝読書をやっているが、生徒は全く本を読まない」と言う学校もあります。また別の学校では、「朝読書を始めてから、生徒が授業中も読書するようになって困っている」という話もありました。どちらも、ちゃんと「成果」が現れているようです。

■あとなぎ 「またもシメタ」

初任者研修を教務主任として担当することになって三度目です。最初は「研修活動」というテーマが与えられていて、5名の初任者を相手にコーヒーとケーキを用意して、「たのしい授業とたのしい研究」の話をしました。二回目からは「教務についての話」というテーマなので、ボクが教務という仕事で気をつけていることをまとめてみようと思いました。やっていくうちにたのしくなっていって、初任者研修そっちのけでいろいろと調べてしまいました。それをサークル用にまとめたのがこのレポートです。

「校外研修」のレポートとしても十分通用しますので、どうぞ。でも暑さのためか、なんか支離滅裂になっているような気がしますなあ。

いやあ「○○○○」も疲れます。書いているうちに「納得できない」「割合で示せ」という桜井さんの顔が出てきて、つついより詳しく調べてしまうのでした。感謝。法務省はデータをネットで公開していないので、ぶ厚い『犯罪白書』も注文しました。グラフなどを書き直さなければならないな。

そうしているうちに、また新しいデータも発表される・・・。

最後の定時制は寂しいのですが、古くからの職員が急死して、よりいっそう寂しさが募ります。またひとり定時制の理解者を失いました。最後の言葉は「学校」だったそうです。

Rest in peace

丸山秀一

kasetsu.maruyama@nifty.com

■ 典拠文献

- ・ 板倉聖宣『私の評価論』国土社 1989 この本は現在、『教育評価論』（仮説社）として発行中。
- ・ 板倉聖宣ほか『学校と試験』週刊朝日百科「日本の歴史」94, 朝日新聞社, 新訂増補版 2004
- ・ 板倉聖宣「研究と研修」『たのしい授業』No.173, 仮説社, 1996.9
- ・ 文部科学省『データからみる日本の教育 2005』2005
- ・ 丸山秀一「学校不適應の問題」2000, レポート
- ・ 丸山秀一「学校教育の現状」2004, レポート
- ・ 文部科学省サイト 各種統計情報
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/main_b8.htm
データのほとんどはここからのもの。
- ・ 厚生労働省サイト 各種統計情報
- ・ 学校図書館協議会サイト
- ・ 法務省白書等データベース
<http://hakusyo1.moj.go.jp/>
- ・ 中一夫「〈ゆとり〉か〈学力〉か ゆれる学習指導要領」『たのしい授業』2003.11 仮説社
- ・ 板倉聖宣「教員の病気休職者数の変動」『たのしい授業』2003.9
- ・ 中一夫「少年犯罪は急増しているか」『たのしい授業』2000.10

■ 参考文献

- ・ 丸山秀一「望ましい中等学校 50年前の教育方針」2003, レポート
- ・ 丸山秀一「考査と試験」「研修と研究」1996, レポート
- ・ 板倉聖宣「〈高校を中退してよかった〉という高校中退生」

『たのしい授業』 No.109 仮説社

- ・ 板倉聖宣 「〈たのしい授業〉の学校史的意義」『たのしい授業』 No.101 仮説社
- ・ 板倉聖宣 「図表に見る日本の教育」グラフで見る世界 72 『たのしい授業』 No.142
- ・ 板倉聖宣 「校内暴力・いじめ・登校拒否のその後」グラフで見る世界 116 『たのしい授業』 No.193
- ・ 板倉聖宣 「教育の未来に向かってオーム真理教から教育を考える」 1995.11.18 日高教育会館での講演記録 『1996 たのしい授業フェスティバル&入門講座』ガイドブック 兵庫仮説実験授業研究会 1996.3.26
- ・ 板倉聖宣 「未来の学生・生徒数の予測」グラフで見る世界 99 『たのしい授業』 No.173
- ・ 板倉聖宣 「自分の判断で行動する人の時代 登校拒否児の増加は明るい社会の前ぶれ」 『たのしい授業』 No.187 『教育が生まれ変わるために』（1999.8）にも収録。
- ・ 板倉聖宣 「校内暴力とたのしい授業の必要性」『教育の未来に向けて』仮説社 1995.8
- ・ 板倉聖宣 『科学的とはどういうことか』仮説社（1977）
- ・ プロパガンダ全般についてはノーム＝チョムスキーの著作全般をおすすめします。